

ちいさな藍美術館

かやぶきの里にある「ちいさな藍美術館」は、藍染めの歴史を風光明媚な環境の中で知ることができる施設だ。1796年、庄屋を世襲していた中野家の高台に建てられた、村内最大の茅葺き屋根の農家内にある。段々畑を守るために作られた大きな石垣や、小さくも繊細な庭はこの家の高い地位を反映している。

現在の所有者は京都出身の美術家・新道弘之である。彼は1981年に家族で美山町に移り住み、中野家を購入し、歴史的建造物を染め工房に改装した。1960年代後半に京都市立美術大学在学中に藍染を知り、以来、藍染にこだわり続けている。藍の葉を染料にするための発酵に必要な灰を作るために、木を大量に燃やすことができる田舎であることと、地下水がきれいであることが、新道がこの町を選んだ理由である。2005年には世界各地の藍染のコレクションを展示した美術館を開設し、かやぶきの里を訪れる人々に藍染の歴史を伝えている。

美術館の入り口からは隣の部屋にある新道の工房を覗くことができる。藍染の染料が入った桶が床に固定されている。この染料は化学合成物質を一切含んでおらず、新道家の畑のように、役目を終えたら肥料として使うことができる。また、抗菌作用や虫除け効果もある。

このような利点と、青や紫の鮮やかな色合いから、藍染は何千年も前から世界中で珍重されてきた。かつて屋根の葺き替えに使った干し草が保管されていた屋根裏部屋では、藍染の歴史を作家が収集した、交代で展示している数百点の藍のコレクションを通して学ぶことができる。入館料は300円。